

第14講 【 蔵象 VII 】 教科書 P.46・47

【 六腑 】

：六腑とは“胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦”の総称で体外から取り入れた水穀の通路の役割を果たし、水穀の消化・吸収・体外への排出の働きを持つ。

『 胆 』

[別称] 中正の官 『 素問 』；中精の府

[位置] 背の第10椎に付く

[特徴] 条達を好み、抑鬱を嫌う

* 身体の中央に位置し、公平中立の立場を保つ。

* 胆は中空性器官で水穀の消化に参加するが、水穀の通路の役割は果たさず、五臓に似た生理機能を持つため奇恒の府にも分類される。

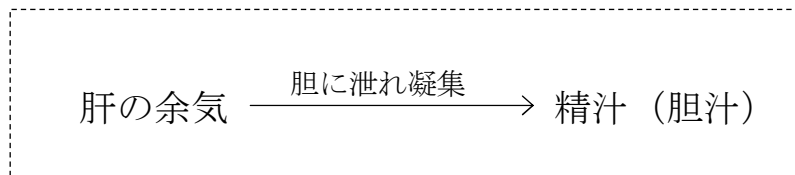
[生理機能]

：胆には“精汁を蔵す”“決断を主る”“勇怯を主る”等3つの働きがある。

1. 精汁を蔵す（蔵精汁）

：胆は精汁（胆汁）を蔵し、小腸に排出する作用を持つ。

『 胆汁の形成 』



* 精汁の作用：水穀の消化・吸収を促進する。

2. 決断を主る（主決断）

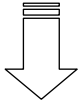
：胆は公正中立の立場から決断を下す働きを持つ。

決断の意義 { * 精神活動上の決断
* 五臓六腑の働きに関わる決断 → 十一臓腑の仲裁・調節

3. 勇怯（勇氣）を主る（主勇怯）

: 胆は勇氣（度胸・肝玉・胆力）を主っている。

胆が充実



胆が不足

- * 物事に簡単に驚いたり恐れたりしない。
- * 精神的なストレスに強い。

- * 物事に簡単にビクビクする。
- * ストレスに弱い。

『胃』

[別称] 倉廩の官 『素問』

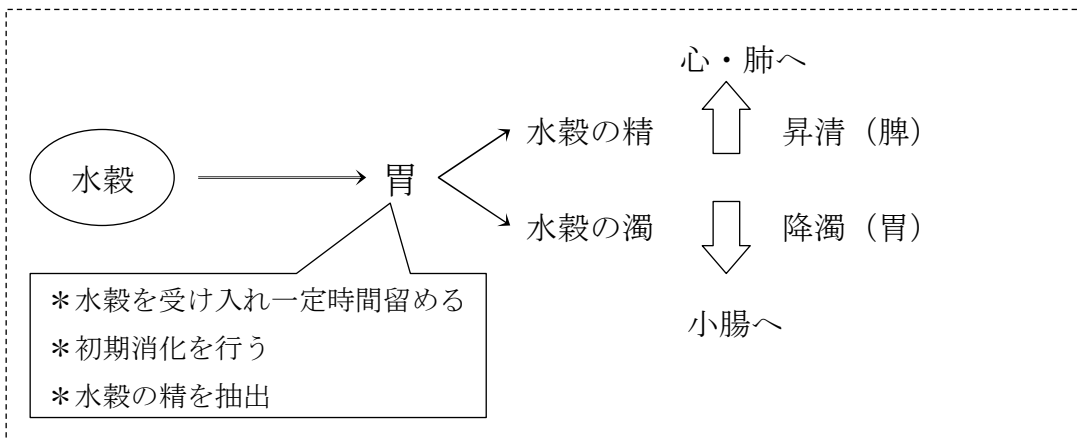
[位置] 背の第12椎に付く

[特徴] 湿潤を好み、乾燥を嫌う

[生理機能]

1. 水穀の受納と腐熟を主る
2. 水穀から精を抽出
3. 降濁（降濁を主る）：水穀の濁を小腸に送る

受納：受け入れる
腐熟：消化



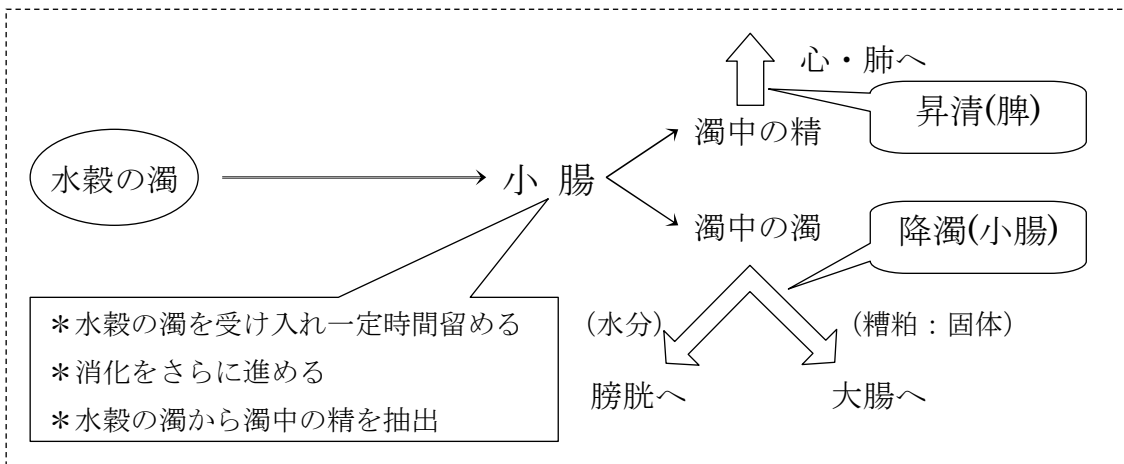
『 小腸 』

[別称] 受盛の官 『 素問 』

[位置] 背の第18椎に付く

[生理機能]

1. (水穀の濁の)受盛を主る
2. 清濁の泌別を主る
3. 降濁 (降濁を主る) : 濁中の濁を大腸に送る



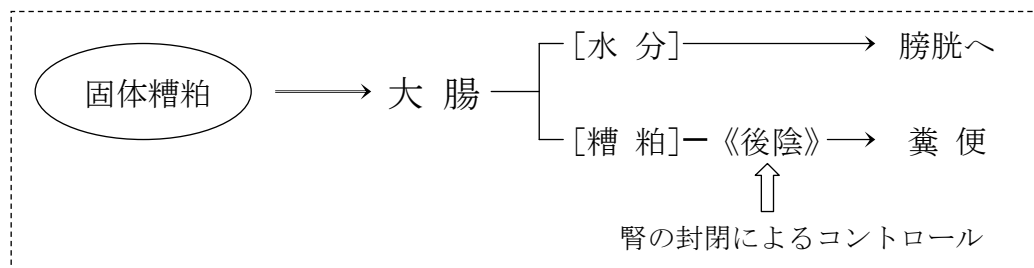
『 大腸 』

[別称] 伝導の官 『 素問 』

[位置] 背の第16椎に付く

[生理機能]

1. (糟粕から)一定の水分を吸収する → { 亢進: 便秘
低下: 下痢
2. 糞便を排出する



『膀胱』

[別称] 州都の官 (洲都の官) 『素問』

[位置] 背の第19椎に付く

[生理機能]

1. 尿液の貯蔵と排泄

